

うじ井戸端会議 レポート

H28年9月開催



第7回うじ井戸端会議を開催しました

第7回目(H28年度の2回目)となるうじ井戸端会議を9月8日に開催しました。まちづくりマイスターさん、地区まちづくり協議会、その他まちづくりに興味のある方13名が参加されました。井戸端会議では、昨年度より、「空き家&高齢化」、「景観」、「交通」及び「防災」をテーマとしてきました。前回までに、「空き家&高齢化」、「景観」について、グループ討議とまち歩きを行ってききましたので、今回は「交通」をテーマとして開催しました。当日は、宇治市交通政策課が宇治市の公共交通の一つとしてのバスについて重点的にお話しさせていただき、これについてグループ討議を行いました。



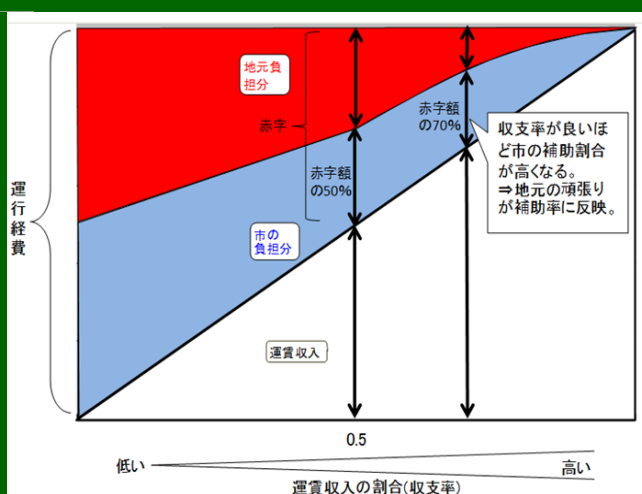
宇治市のりあい交通事業 って何？

路線バスを、住民、交通事業者、宇治市が出資して存続させていく仕組みです。

具体的には、運行経費から運賃収入を差し引いた赤字部分を、地元と市で負担します。

この事業を活用しているのが、明星町レインボウバスです。

当日は、バス存続に尽力された、明星町地区まちづくり協議会の会長様も参加され、貴重なお話を聞くことができました。





1班では

- ・レインボウバスは60%くらいの乗車率で赤字もあるが、高齢者も多く残して欲しい。
- ・明星町は、地域コミュニティが活発であったからこそ、乗り合い交通事業ができたのではないか。コミュニティの役割、特にリーダーの役割が大きい。
- ・まちづくりと一体的に公共交通を考えていくべき。
- ・利用状況（時間帯・利用目的・昼と夜の比較など）、誰が何の目的でいつ使うのかなどの分析が重要。
- ・JR宇治などの中心市街地でのバスの乗り継ぎに料金メリット(割引)が出せないか？
- ・まず、住民が何ができるのかを考えることが始まり。



2班では

- ・バスの乗り継ぎに割り引き等があれば利用率が上がるのでは？バス運行計画の見直し(宇治淀線・カムループス通りの路線等)が必要。
- ・道路整備が不十分で、バスの定時性が確保できないことも利用阻害の一因か？鉄道と道路の立体交差などをすればよいのでは。
- ・バスと鉄道のセット割や高齢者割などがあればいい。
- ・自家用車から転換して、バスに乗ることが大事。
- ・宇治は他の市町に比べて恵まれている。
- ・明星町などの成功事例を共有していく。
- ・バス利用促進をもっとPRしていくことが大事。
- ・市街地を重点的にネットワーク化して、各地域とつないでいく。
- ・利便性を考えるとスピードも大事かもしれないが、狭い地域では必要ないのでは。



バスを存続させるには？

市民の皆さんひとりひとりが、一年に一回バスに乗るだけで、赤字が解消されます。交通手段が無いときやご高齢になったときにバスが存続されているように、みんなでバスを存続させていきましょう！



3班では

- ・駐車場が少なく、自家用車は不便だったので、自家用車からバスに転換した。
- ・通勤時間帯でさえバス利用が少なく、ノーマイカーデーを設定するなど、利用促進が必要。
- ・自家用車は大通りのみで生活道路には侵入しないというところもある(海外)。
- ・宇治は坂の多いまちなので、今後バスは重要になると思うが、バス停に行くのも大変な場所がある。
- ・バスの本数は減っている。
- ・行きはバスの時間に合わせて家を出るが、帰りはバスの時間が合わず歩いて帰ることもある。
- ・将来、日々の買い物とかに不安がある。生活できなくなるのではないかな？
- ・乗り合い交通事業を導入するには、複数の自治会で協働しないとできない地域もあり、協議する場が必要。
- ・廃止路線のうち、残ったのは明星町だけ。何とか赤字を少なくできないかについては、市・バス会社と協議している。住民の受益者負担が前提でないとバス路線は残せない。明星町では、自治会費を200円／月から500円／月に増額した。バス路線が廃止になると、町内会の住民が将来半減するのではとの思いがあった。
- ・バス路線沿線の自治会のみであれば協力し合うことも可能ではないか。



次回のうじ井戸端会議

H29年3月22日（水）

13：30～

志津川集会所(市役所よりバス移動)

今年度最終となるうじ井戸端会議を上記のとおり行います！申込書を同封しておりますので、奮ってご参加ください。

企画運営の方と話し合った結果、今回のテーマは「防災」に決定し、平成24年の豪雨災害で甚大な被害が発生した志津川のまち歩きを行うことになりました。当日は、ハザードマップ作成等の防災活動に熱心に取り組まれている志津川地区まちづくり協議会の方のお話もありますので、貴重な経験となると思われます！